



えどぎくかだん 江戸菊花壇

江戸菊は、江戸時代に江戸(東京)で発達した古典菊です。
花が咲いてから花びらが様々に変化し、色彩に富んでいるのが特徴で、「花の変化」を鑑賞する菊です。
新宿御苑の菊花壇のなかでは、もっとも古い歴史があります。

作り始め：明治11年(1878)



いちもんじぎく、くだものぎくかだん 一文字菊、管物菊花壇

一文字菊は、花びらの数が16枚前後の一重咲きの大輪菊です。花の形から、御紋章菊ともよばれています。
管物菊は、筒状に伸びた花びらが放射状に咲く大輪菊で、糸菊ともよばれています。

作り始め：大正14年(1925)



ひごぎくかだん 肥後菊花壇

肥後菊は、古くから肥後(熊本)地方で作られた一重咲きの古典菊で、おもに武士の精神修養として発達しました。
栽培方法や飾り方は、江戸時代に熊本で確立した、秀島流の厳格な様式にもとづいています。

作り始め：昭和5年(1930)

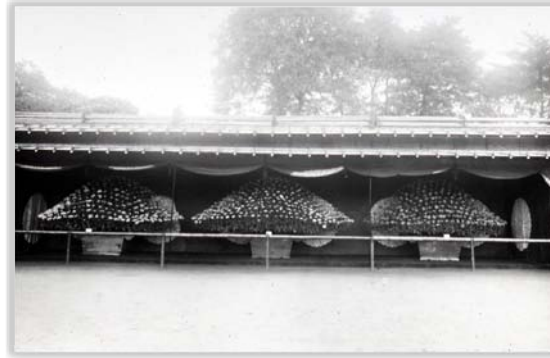


おおぎくかだん 大菊花壇

大菊は、菊の代表的な品種で、花びらが花の中央を包み込むように丸く咲くのが特徴です。
神馬の手綱模様に見立てた「手綱植え」とよばれる新宿御苑独自の様式で、39品種311株の大菊を黄・白・紅の順に植えつけ、全体の花が揃って咲く美しさを鑑賞する花壇です。

作り始め：明治17年(1884)

皇室ゆかりの伝統を受け継ぐ 新宿御苑の菊花壇



日本に園芸品種の菊が渡来したのは、奈良時代末から平安時代はじめといわれています。その後、室町、江戸時代と発達をとげ、明治元年(1868)に菊が皇室の紋章に定められました。

明治11年(1878)、宮内省は皇室を中心として菊を鑑賞する初めての『菊花拝観』を赤坂の仮皇居で催しました。展示用の菊は、当初は赤坂離宮内で栽培されていましたが、明治37年(1904)より新宿御苑でも菊の栽培が始まりました。そして昭和4年(1929)からは、観菊会も御苑で行われるようになりました。

大正から昭和にかけては、観菊会の展示の規模、技術、デザインなどがもっとも充実した時期で、これらによって新宿御苑はパレスガーデンとして、広く海外に知られるようになりました。

菊花壇展のご案内

公開日 11月1日～15日

・公開期間中は、特別開園期間として月曜日も休まず開園します。

公開時間 9：00～16：00

環境省 新宿御苑 管理事務所

〒160-0014 東京都新宿区内藤町11

TEL 03 (3350) 0151 FAX 03 (3350) 1372

ホームページ

<http://www.env.go.jp/garden/shinjukugyoen/>



新宿御苑

菊花壇展

皇室ゆかりの伝統を受け継ぐ

